

公益社団法人 上伊那教育会

# 令和3年度 第72回夏期講習会

◇期日：令和3年7月29日（木） 30日（金） ◇場所：上伊那教育会館 講堂

## ○テキスト

西田哲学選集 第一巻

『西田幾多郎による西田哲学入門』

第二部「善の研究」

第一編「純粹経験」第一章

第三編「善」第九章～第十三章

## ○講師

京都工芸繊維大学大学院

教授 秋富 克哉 先生

## ◇1日目（7月29日）日程

開講式 9:00 ～ 9:20

討議1 9:25 ～ 11:25

討議2・3 12:25 ～ 16:45

「秋富先生と語る会」 中止

## ◇2日目（7月30日）日程

討議4・まとめ 9:20 ～ 11:20

講演会 13:00 ～ 14:40

閉講式 14:40 ～ 15:00



## 【開講式から】

原 文章 上伊那教育会長あいさつ

皆さん、こんにちは。暑い日々が続いています。

昨年はコロナ禍によりこの夏期講習事前読み合わせ会及び夏期講習会が中止となりました。今年も5月に予定していた第1回の事前読み合わせ会は郡内の感染拡大により中止といたしました。その後、感染状況が治まりつつあったことから、6月以降予定していた3回の読み合わせを行い、本日に至っております。

3回の事前読み合わせには、今年も唐澤正吉先生のご指導をいただきました。そして、今日、明日と2日間、講師として京都工芸繊維大学大学院教授秋富克哉先生をお招きし、唐澤先生とお二人のご指導をいただき、本年度の夏期講習会がいよいよ始まります。唐澤先生、秋富先生、よろしくお願いします。

この夏期講習会ですが、今年で72回を数えます。この講習会についてはいろいろな所で説明されていますが、昭和24年、飯島町の西岸寺で8月3日から3泊4日の日程で行われた夏期講習会に遡ります。「西岸寺講習」と呼ばれるものですが、郡下の青年男女教員が、企画から運営まで一切を担って行われていたということです。今年も正副運営委員長を、若い先生に担っていただいています。その講習会が、哲学の講習会へと特化され、本日を迎えているわけであります。

さて、第1回の事前読み合わせ会の折に少し触れましたが、この夏期講習会が戦後の昭和24年に始まったことに思いを馳せたいと思います。軍国主義一色に染まった戦前戦中から、敗戦後、価値観が一変し、世の中も、そ

して教育現場も大混乱に陥った中、心ある多くの教師たちは、子どもたちとどのように向き合ったらよいか、とことん悩み、教師としての自分の存在意義に疑念を抱き苦しんだのではないのでしょうか。そして、そのような悩みや苦しみを、私たち人間とはどのような存在なのか、そして私たちはどのように生きるべきなのか、という根本的な問いに昇華させ、哲学研修会での学びへと駆り立てていったように思います。

ひるがえって、現代に生きる私たちも Society5.0 に代表される新たな社会の到来が叫ばれる中、これまでの生活様式や価値観の転換が迫られ、それと共に教育現場も未来を見据えた新たな教育の創造が求められています。また、多様な家庭的背景を持つ子どもたちや様々な発達の課題を抱える子どもたちへの対応に追われる中で、日々悩み苦しむことも多くなっています。戦後の教師たちと比べようもありませんが、どこか似たような状況に置かれているようにも思います。ですから、今こそ、哲学を学ぶ意味はあるだろうと思います。秋富先生がご指摘されているように、「教育そのものの根幹が哲学に通じている」ということを、この2日間の夏期講習会を通じて実感できたらと思います。

残り多き2日間となりますことをご期待申し上げ、以上、開講の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## □ 廣瀬 直弘 夏期講習運営委員長あいさつ

本日は、暑い中お集まりいただきありがとうございます。

秋富先生、このような状況下の中、遠路はるばるお越しいただき、ありがとうございます。唐澤先生、計3回の読み合わせ会に引き続きお世話になります。よろしくお願いいたします。

昨年度は残念ながら開催できなかった夏期講習も、今年度はこのように参加者の皆様のご協力を得ながら開催できることを大変うれしく思います。

さて、この夏期講習会までに3回の読み合わせ会を通して西田哲学の「善の研究」について学んで来ました。哲学と聞くとどうしても難しい、というイメージがついて回りがちですが、先生方の日々のご経験とテキストとを照らし合わせて考えると、何かが少しずつ見えてきた気がしました。

本日はテキストの読み合わせからレポート発表、グループ討議を通し、先生方の日々の実践等を語り合っただければと思います。そして、明日は秋富先生からご講演を賜ります。私は初めて秋富先生のご講演を拝聴しますので、今からとても楽しみです。この二日間、普段は触れる機会が少ないであろう哲学に向き合うことを通して、これからの教育活動に生きるものを少しでも得たいと考えております。最後になりますが、ご参加いただきました皆様にとって充実した夏期講習会になられますことを祈念致しまして、運営委員長の挨拶とさせていただきます。二日間よろしくお願いいたします。本日は暑い中お集まりいただきありがとうございます。秋富先生、今年も遠路はるばるお越しいただきありがとうございます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。唐澤先生、計3回の読み合わせ会に引き続きお世話になります。よろしくお願いいたします。



## 【参加した先生方の感想】

■ 純粹経験の部分ですが、読み合わせから2回目となると心に残る部分が変わってきました。自分の今まで見たこと、知ったこと、思ったことをつなぎ合わせて事象と向き合ったり評価したりしようという目で見てしまい、事実そのままを知るとは遠いなと感じました。

■ 平日に行われた読み合わせ会の時より時間にゆとりがあり、ゆっくり他の先生方のお話にも耳を傾け、自分の中で考えることができました。子どもへの関わり方について、いろいろな方面からご意見を述べられる先生方のお話から、自分ももっとちがう角度から子どもたちを観察してみようと思いました。

■ 2日間の討議を通して、私たち教師は、とにかく固定観念をもたず、柔軟に子どもと向き合うことが何よりも大切だと思いました。大人にとっての善が、時として子どもには善でないこと、行為としては悪でも動機は善であることもあること、色々なことを踏まえて純粹経験を積んでいきたいと思います。

■ 西田哲学の難解さを感じつつ、討論ではその難しい文章からご自身の意見を述べられているみなさんに感心させられました。上伊那の教育に10年以上携わっていますが、この西田哲学につながる部分が多くあることを感じました。



## 講演会

演題『 詩人的にこの地上に住む — コロナ禍のなかで、西田に学びつつ—』

講師 京都工芸繊維大学大学院 教授 秋富 克哉 先生



### 【講演会の感想】

- 「詩人的にこの地上に住む」ということを西田哲学に即してという秋富先生のお話を聞き、少しだけその意味がわかったように思います。その事実をそこに見える姿だけでとらえるのではなく、その内実を見ようとすると、この私たちの姿勢が今この激動の時代に問われているのではないかと思います。矛盾を楽しめる自分そして矛盾を考え抜いていける自分にする、それこそが自己の鍛錬であり、それが子どもの姿を「あれっ」「おやっ」という思いを持って見られる教師となるのではないかと思います。
- 「詩人的にこの地上に住む」のおまとめの言葉の落ち着いて深く遠く考えて生きていくということがやはり心に残りました。自分を振り返ると自己矛盾を感じるが、それを知ることが大切だと思いました。また哲学をよりどころとして教育を考え実践すること、子どもをとらえていくことの大切さも改めて感じました。こういう機会を求め学んでいきたいと思います。
- 今回、夏期講習会に参加し討議や講演をお聞きすることを通して、私自身が特に心に残ったのは「言葉」と「個人性」という言葉である。「言葉については、純粋経験を口にした時点で意識してしまい、純粋経験や自分の心から離れてしまうとありました。しかし、子どもの気持ちを知ること、自分の思いを伝えること、さらに言えば、西田哲学や秋富先生から教えていただくのも「言葉」であるため、教師として「言葉」の限界について突き詰めていきたい。また「個人性」については、西田哲学の「善の研究」にも「島木赤彦君」にも同じものでも個性が出るといった記述があった。子どもに対して個性を大切にするということはよく聞くことであるし、自分もよく言ってしまうが、それが本当はどんなことであるのか、今回の経験を通して見つめ直していきたいと思いました。





## 【閉講式から】

### □ 浦山 哲夫 上伊那教育会副会長あいさつ



今年もまた夏期講習が充実の内に終わることができ、大変ありがたく思います。

昨年来のコロナ禍のなかで、いつも通りにできないことに悩み、どうしたらできるのかを考え続けました。子どもたちにとって必要な学びは何なのかという根本的な課題にぶつかり、自分自身を見つめ直し、向き合ってきました。本年度の募集案内に記されたサブテーマには「哲学の視点から子どもの見方を新たに、自らの教育実践に確信をもつ教師を目指して」とあります。この2日間は、哲学を通して自分のあり方を振り返り、他の先生方の考えにも触れながら、本研修が大切にしてきた「自己を見つめ、自己に問い、考えを深め、自己を磨く」ことができた、そんな時間であったと思います。

そして、事前の読み合わせ会からこの夏期講習まで、常に熱く語り合う先生方の姿に、こうして集い、顔を突き合わせて語り合うことの意味を改めて感じさせていただくと同時に、常に学び続ける教師の姿、教師としてのあり様の具体を見ることができました。

ここに至るまで、読み合わせのレポートに沿って、文書による丁寧なご指導をいただき、そして昨日・今日と直接ご指導、ご講演を賜りました秋富克哉先生、ならびに、これまで3回にわたり事前の読み合わせで熱いご指導をいただき、そして今回も、常に哲学と日々の実践とを関係づけたご指導をいただきました唐澤正吉先生に心より感謝申し上げます。

お二人の先生におかれましては、これからもますますご健康でご活躍されますことをお祈り申し上げますと共に、上伊那の教職員に対して、今後ともご指導を賜りますことをお願い申し上げます。

また、今日に至るまでの周到な準備と学習を重ね、このように充実した夏期講習会にさせていただきました運営委員、哲学研修委員の皆さん、司会者・レポーターの皆さん、二日間長時間にわたり熱心に語っていただきましたご参会の皆さん、また講演会に足をお運びいただきました地域の皆様に心より感謝申し上げます、閉講のあいさつとさせていただきます。